

# 福島12市町村の将来像に関するアンケート 調査結果について

平成27年6月

# 福島12市町村の将来像に関するアンケート調査概要

## 調査目的

福島12市町村の将来を見据え、住民の皆様が望まれる復興のあり方を伺い、将来像の検討の参考とする。

## 調査方法

### ◆ 調査対象

#### (1) 調査票 1

平成23年3月11日時点で福島県内の12市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村）に居住していた世帯の、調査時点で高校1年生相当の年齢以上の個人。（平成26年度に満16歳以上の個人であり、現在15歳で平成26年度中に誕生日を迎えた方も対象。）

#### (2) 調査票 2

平成23年3月11日時点で福島県内の12市町村に居住していた世帯の、現在小学4年生から中学3年生までの個人。

### ◆ 調査票配布数

12,931世帯（調査票1：51,724部、調査票2：25,862部、計77,586部）

### ◆ 有効回答数

5,137（調査票1：4,662、調査票2：475）

### ◆ 標本抽出方法

無作為抽出（対象世帯77,554から1/6の割合で抽出）

### ◆ 調査期間

平成27年2月～3月

# 福島12市町村の将来像に関するアンケート調査結果①

- ❑ 震災前に住んでいた市町村について、「かつてどうであったか」と、将来「こうであってほしい」と思う項目について質問し、比較した。
- ❑ かつての市町村にあてはまると答えた割合が高かった項目の順は、1位:「9.山や川や海などの自然が豊か」(81.8%)、2位:「4.事故や犯罪が少なく安心・安全」(73.1%)、3位:「8.先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地」(72.0%)、4位:「隣近所が親密で、地域の行事等を通じた、人と人とのつながりが深い」(71.0%)といった、昔ながらの市町村の良さと思われる項目であり、これらの項目は「将来こうであってほしい」と答えた割合も比較的高かった。
- ❑ 全体的に見ると、**住民が期待する将来の市町村は、かつての市町村と大きくは変わらない**ことが見受けられる。
- ❑ かつての市町村にあてはまると答えた割合が比較的低かったもののうち、将来「こうであってほしい」と答えた割合が高かった項目の順は、「17.道路や交通などが整っている」(60.2%)、「3.子供、お年寄り、障害のある人も住みやすい」(59.3%)、「11.産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん」(49.0%)、「18.公共施設が充実している」(47.4%)であり、これらの項目については住民の将来に対する期待もうかがえる。

| No. | 設問            | 問1:かつてどうであったか                   | 問3:将来こうであってほしい |      |
|-----|---------------|---------------------------------|----------------|------|
| 1   | (ア)生活         | 隣近所が親密で、地域の行事等を通じた、人と人とのつながりが深い | 71.0           | 59.2 |
| 2   |               | 学校や地域などでの学びが充実                  | 31.5           | 37.8 |
| 3   |               | 子供、お年寄り、障がいのある人も住みやすい           | 39.9           | 59.3 |
| 4   |               | 事故や犯罪が少なく安心・安全                  | 73.1           | 67.9 |
| 5   | (イ)文化・スポーツ    | 地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を大切にする  | 62.2           | 58.1 |
| 6   |               | 文化、芸術活動が盛ん                      | 26.8           | 33.1 |
| 7   |               | スポーツ活動が盛ん                       | 35.0           | 35.8 |
| 8   | (ウ)土地         | 先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地       | 72.0           | 58.8 |
| 9   | (エ)自然         | 山や川や海などの自然が豊か                   | 81.8           | 71.0 |
| 10  |               | 静か                              | 62.5           | 45.8 |
| 11  | (オ)産業・にぎわい    | 産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん        | 29.7           | 49.0 |
| 12  |               | お店がたくさんある                       | 17.9           | 36.1 |
| 13  |               | 多くの観光客が訪れ、にぎやか                  | 7.1            | 17.7 |
| 14  |               | 外国との交流が盛んで、国際的                  | 3.6            | 9.8  |
| 15  |               | 町の良いところが全国的に有名                  | 15.2           | 23.5 |
| 16  | (カ)施設、道路、通信環境 | 大きな建物が建ち並び、都会的                  | 1.3            | 6.1  |
| 17  |               | 道路や交通などが整っている                   | 35.0           | 60.2 |
| 18  |               | 公共施設が充実している                     | 27.3           | 47.4 |
| 19  |               | インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能       | 14.1           | 26.3 |
| 20  | (キ)その他        | 特になし                            | 0.9            | 1.8  |
| 21  |               | その他                             | 6.1            | 6.0  |
| 22  | 無回答           |                                 | 0.9            | 7.9  |

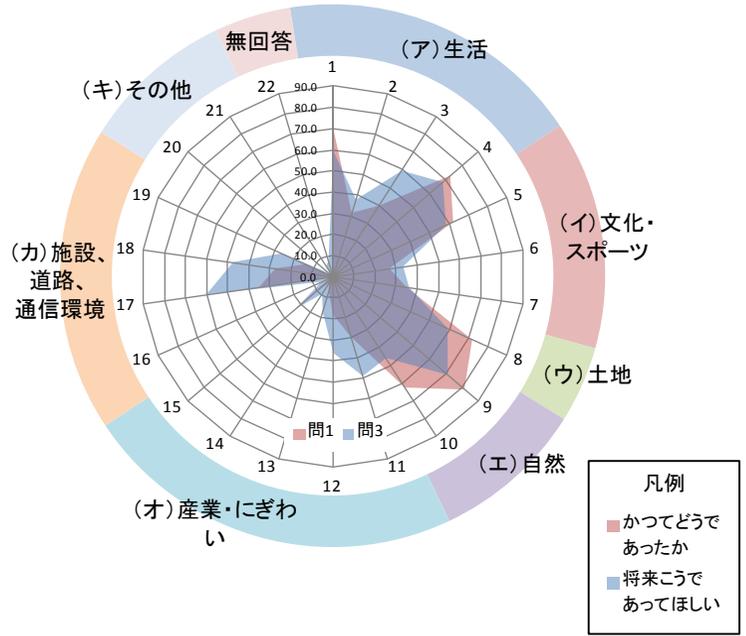


図1：震災前に住んでいた市町村について（複数回答）  
 （「かつてどうであったか」と将来「こうであってほしい」と回答した割合の比較）

# 福島12市町村の将来像に関するアンケート調査結果②

- 世代別に「将来こうであってほしい」と答えた項目を見ると、小中学生や10～20代の若い世代では、「7.スポーツ活動が盛ん」(45.5%)、「12.お店がたくさんある」(50.8%)、「19.インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能」(43.0%)が、他の年代に比べて割合が高かった。
- 男女別に「将来こうであってほしい」と答えた割合を見ると、回答に大きな差は無かった。男女の回答割合の差が最も大きかったのは「12.お店がたくさんある」であり、女性の方が男性を6.4ポイント上回った。

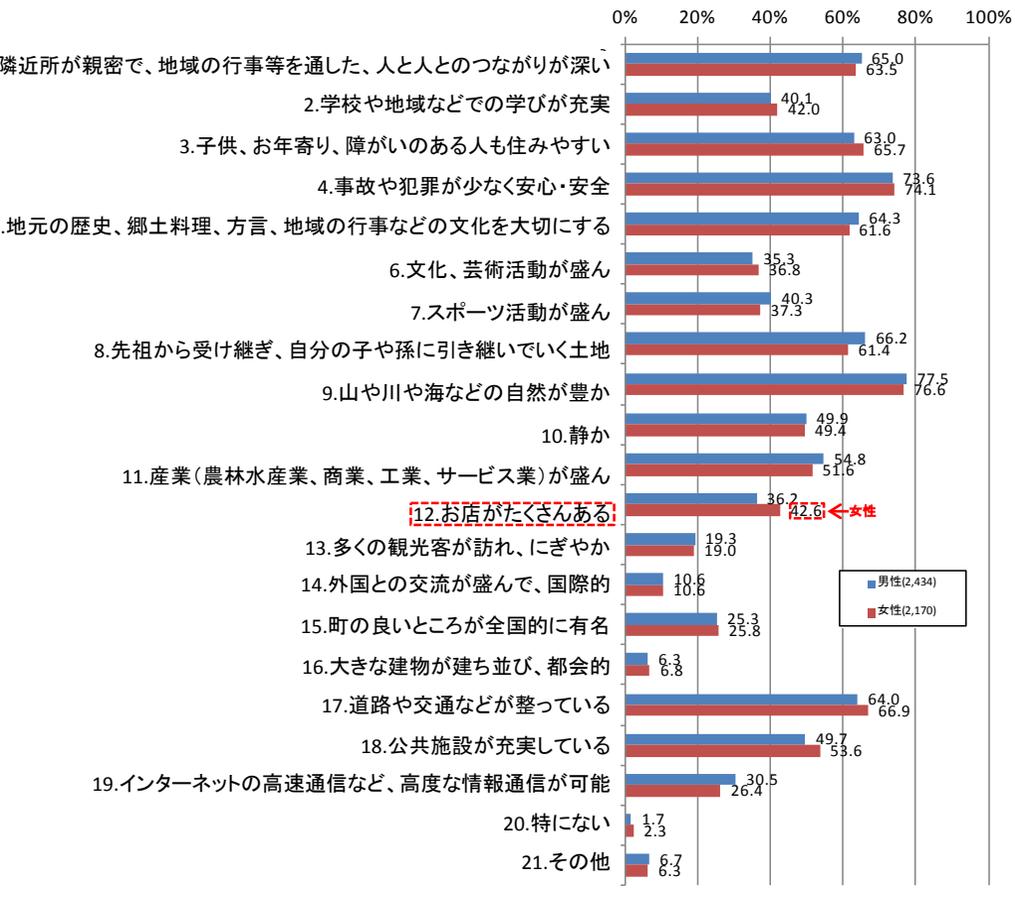
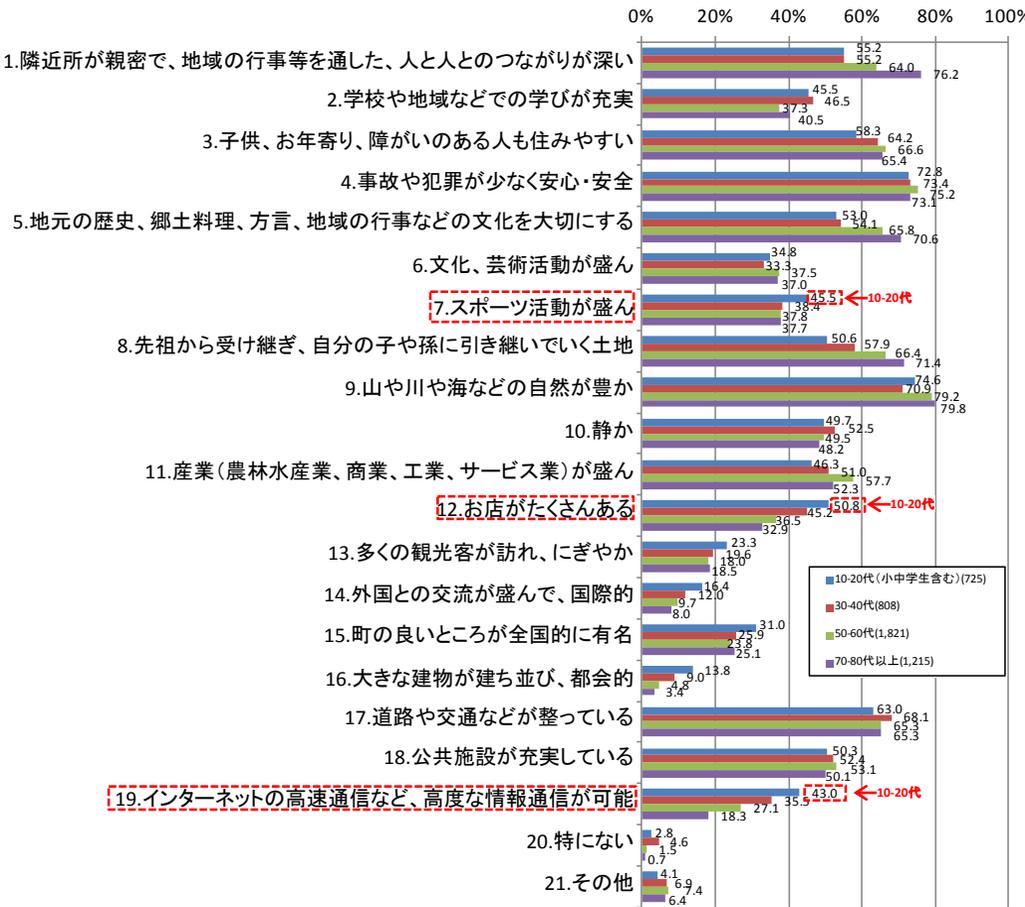


図2：震災前に住んでいた市町村について、将来「こうであってほしい」と思う項目（複数回答）（世代別）

図3：震災前に住んでいた市町村について、将来「こうであってほしい」と思う項目（複数回答）（男女別）

# 福島12市町村の将来像に関するアンケート調査結果③

- 震災前に住んでいた市町村について、30～40年後、自分自身及び将来の中心世代がどのように関わるのが良いか質問し、世代別に比較した。
- 30～40年後の将来、震災前に住んでいた市町村に住むと回答した割合は、30代以上ではいずれの年代でも60.0%を超えており、小中学生を含む10～20代においては46.4%であった。
- 「何もしない」と回答した無関心層は、どの世代においてもごく僅かであり、大多数が何らかの形でまちづくりに関与すべきと考えていることがうかがえる。

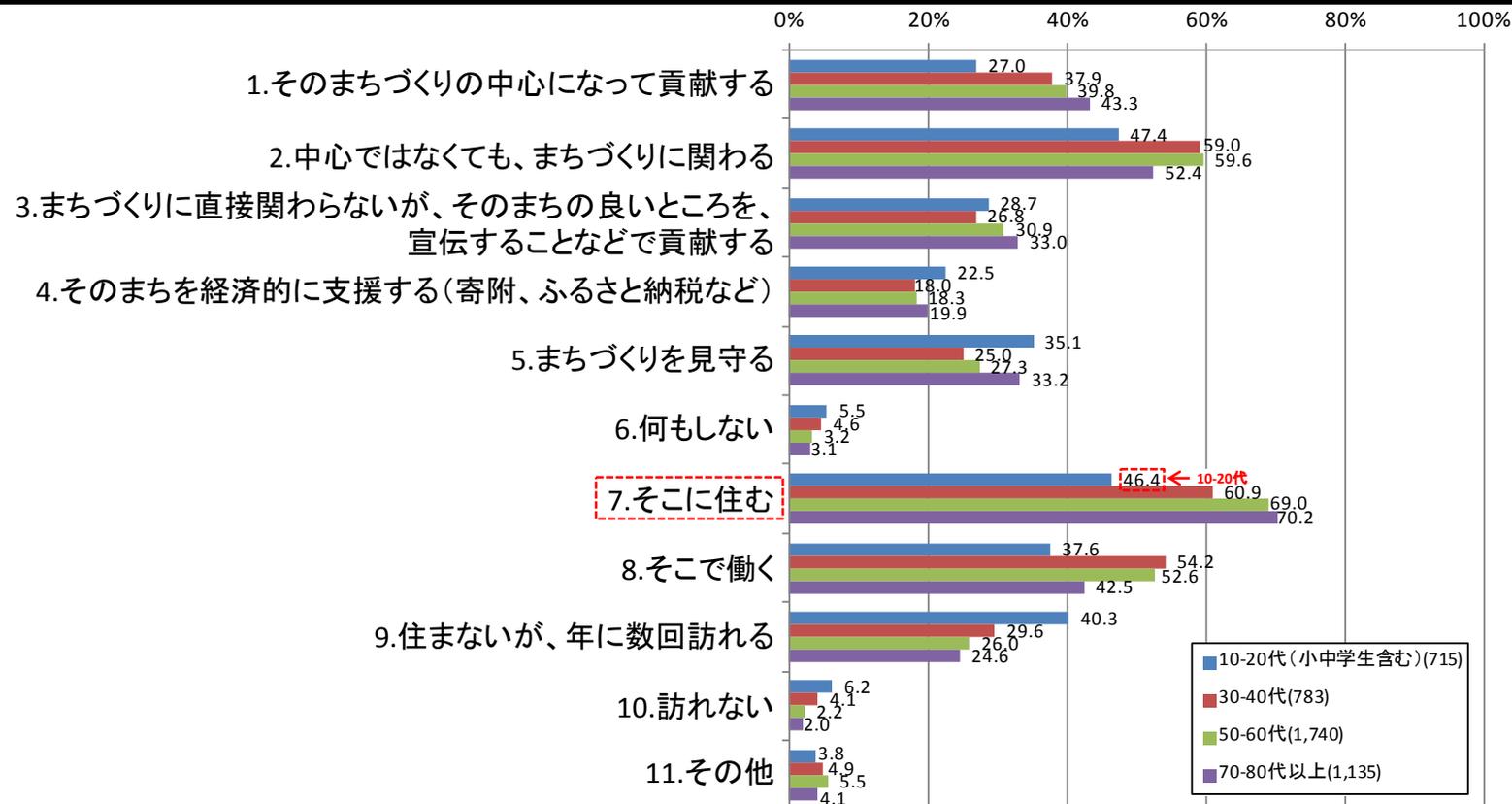


図4：震災前に住んでいた市町村について、30～40年後、自分自身及び将来の中心世代が、どのように関わるべきか（複数回答）（世代別）